

ニュースから考える

緊急事態宣言の解除後も特定の地域で感染者が引続き出ています。しかも、その特定地域ごとに事情は異なり、首都圏では「夜の街」関連、札幌、小樽が「昼の余暇」関連と日中働いている私たちからしてみれば困惑を覚えます。



しかも、道内有数の観光地である小樽で発生したクラスターのニュースは「小樽 = コロナ」となり風評被害は甚大です。一年前、観光客であふれていた運河周辺ではほとんどのお店が閉店し閑散としている様子を目にする者として損失の拡大に拍車をかける不用意な行動に怒りを覚えます。

先月、権威主義、規律重視の国は感染が少なく、重症化しづらいとお話ししましたが・・・その延長線上なのでしょう、感染者に対して日本人は「自業自得」と考える割合が11%で、個々人の自由を容認するアメリカでは1%と寛容なようです（大阪大学調査）が・・・ほんの一部の無責任な行動が日本経済、企業や経営者、従業員、パートさんの人生に大きな影響を及ぼします。

一日でも早く「あたりまえ」と思っていた日々に戻らなければ一生懸命頑張っ、耐え忍んでいる企業にも破綻する日がやってきます。多くの日本人が同じ感情を持っていると思いますが・・・一人一人の責任ある行動が望まれます。

1分でわかる業務カイゼン

自分で解決

自分自身の行動がきっかけでトラブルに巻き込まれる事があります。そのような際に「自業自得」、「因果応報」、「身から出た錆」との言葉はバサッと人を切る感じがします。一方、同じニアンスの英語でも「It serves you right. (当然の報いだね)」、「You asked for it. (自分が望んだ結果だろう)」、「You have only yourself to blame (自分を責める他ない)」とやはり厳しい表現となっています。

しかし、「自分で蒔いた種は自分で刈る」という言葉もあります。トラブルのきっかけを作った本人が責任をもって解決すべきという事で



す。失敗は誰にでもあります。仕事のミスに関しては自分自身でカバーする機会を与えてスキルアップのチャンスと捉えて下さい。

種を蒔く

日本人であろうと、アメリカ人であろうと共産国家以外の国では勤務時間外の行動を制約する事は出来ません。逆説的に言うと労働時間内はルールを守る責任があります。しかし、社員さんに会社を背負っているのだから責任ある行動を取りなさいと言っても簡単に通じません。緊急事態の今は「全員で種を蒔き、全員でその実を刈り取る」方法を経営者・管理者が解りやすく彼らに伝えなければならないのです。そうしなければこの非常事態を生き残る事は出来ませ

ん。今この逆風時に「何のタネ」を蒔くのか、「何時」刈り取るのかを考え、緻密な計画を練り、実行する必要があります。

今回のコロナ騒動で「誰に何を(モノ・サービス)を売るか?」という経営者の視点が変わってきました。特に観光関連業ではインバウンドで痛い目にあっただので内需(道内、国内客)をどう獲得するかを考えています。また、観光業のように衝撃的なブレーキがかからなくても、少子高齢化は進んでいる昨今、今の顧客はいずれいなくなるとの視点で準備を進める必要があります。

どの種を、どのタイミングで、何処に種を蒔くのかを時間をかけて考えましょう。しかし、悪い種を排除し、手を抜かずしっかりと育てなければ、豊かな収穫がない事は誰もが知っています。



私事ですが 20 年ほど前、ある農家さんが農地を貸していただき家庭菜園にチャレンジ。枝豆のタネを蒔き、成長したころに鳥に食べられと…何回も同じ事を繰り返し失敗し、やっと鳥が嫌がるキラキラした紙テープが守ってくれると悟りました。

しかし、ほっとしたのもつかの間、農家さんからお叱りの電話が入ります。「雑草が畑に生えています。すぐに取り除いてください」。要は…畑の大切な栄養分を雑草に取られ畑が弱るとい事です。そこで、雨の翌日



には雑草退治のノルマが課されました。結局、3年程で家庭菜園は終了です。

枝豆を育てる事でさえ大変なのですから…人を育てる事はもっと大変なのだ実感しています。良い種を蒔き、雨の翌日には雑草退治、そんなごく当たり前のことに手を抜かない経営者になりたいものですね!

今月のことば

雨降って地固まる

雨降って地固まるとは、揉め事の後、かえって良い結果や安定した状態を保てるようになることのとえ。

編集後記:

家庭菜園は懲りて今はやっていませんが…我が家の花壇への水まきが毎朝の日課です。しかし、春先には寂しかった花壇が今ではにぎやかに花が咲いて日々の成長(雑草も…)に生命の力強さをひしひしと感しています。妻曰く、「手をかけると花たちはきれいに咲いてくれる」…人も同様と信じましょう…。

故事・ことわざ

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合 (TKCが証明するデータを使用しています)

最近 1 年間 : 75.0%

(国税局の発表によると法人の黒字割合は 34.2% (29 年 4 月 ~ 30 年 3 月) です)